

炭酸ガス施用による冬季のスプレーギク品質向上技術の実証

要約

スプレーギク生産において、炭酸ガスを施用することで、上位等級の発生が多くなり、切花品質を向上させることが確認された。

○ 展示のねらい

切花生産における炭酸ガスの施用は、バラ栽培で一早く導入され、収量や品質向上など一定の成果に繋がっている。また、輪菊生産においても、切花品質向上のため一部で導入されている。そこで、スプレーギク生産においても切花品質を向上させることができるか、同技術を実証する。

展示内容 供試区 炭酸ガス施用 ネポングロウエア CG-554T2 (灯油焚)
CO2 コントローラー (ネポン CGC-600) により 400ppm 設定
対照区 炭酸ガス無施用
品 種 イエローモナリザ

○ 主な成果

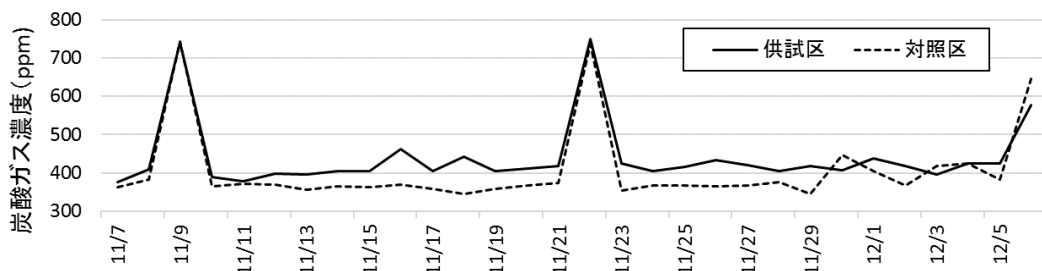


図1 炭酸ガス濃度の推移(10時~16時)

- ・ 11月7日から12月5日の昼間(10時~16時)における炭酸ガス平均濃度は、供試区は約400~500ppmで推移し、平均濃度は412ppmとなった。対照区は約350~450ppmで推移し、平均濃度は373ppmとなった。供試区が平均で38ppm高くなった(図1)。
- ・ 出荷規格発生割合は、2L以上で供試区36.4%、対照区17.6%、Lで供試区36.3%、対照区38.4%、Mで供試区27.3%、対照区44.0%となった(表1)。供試区では対照区に比べ2L以上の上位等級発生割合が多くなった。

表1 試験区別の出荷規格発生割合

試験区	規格(%)		
	2L	L	M
供試区	36.4	36.3	27.3
対照区	17.6	38.4	44.0

これらにより、炭酸ガス施用により草丈や重さが増加し品質向上が認められた。

○ 今後の方向性

現地検討会や講習会などを通じて、炭酸ガス施用効果の周知と補助事業活用による機械導入を進める。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：塩谷町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315